

日本語のスピーチ・プレゼンテーション - サム・マックドナルド

18 October 2008

1. 日本語と日本文化を勉強する学生として、オーストラリア海域での日本の捕鯨の問題には心かいたみます。
2. オーストラリアは先住民の捕鯨には寛容ですが、日本による捕鯨には反対です。

3. 今後の日豪関係を損なわないためにはどうすれば良いでしょうか。

4. オーストラリアの先住民は何千年にも亘って食料供給を水産物に頼ってきました。

5. 先住民は色々な目的のために、ジュゴン、亀、クジラなどを捕獲してきました。

6. 捕獲の伝統を伝えるという点で文化的にも、社会的にも価値があります。

7. また、捕獲は先住民の権利として法律によって守られていて、一般の人達が先住民の生活について理解しやすくなっています。

8. しかし、この法律はオーストラリアの先住民のほかに限られています。

9. 日本人にとっても、捕鯨はむかしからある習慣で、日本の文化と伝統に密着しています。

10. それは8世紀の神武天皇の時代から記録され伝承されてきました。

11. クジラは油 や工芸品の原料 として、また 食用 として、伝統的な祝いの席に用いられてきました。
12. このように、日本の捕鯨もオーストラリアの先住民のように、生活の一部になっています。

13. それでは オーストラリア海域での日本の捕鯨がかんげいされないのは、どうしてでしょうか。
14. 問題は捕獲量にあります。
15. しかし、暴力的な抗議によってのみ 解決できる 問題ではありません。
16. それよりも、どうすれば捕獲量をへらせるか 互いの意見のくいちがいをこんきつよく、話し合うことが大切です。
17. それから日本の捕鯨に関して オーストラリアの人達にもっと理解してもらおうことも大切です。
18. また環境 保全のためにも、建設的な解決策を模索するべきです。
19. 日本語と日本文化を勉強 してきて、私 は 文化や習慣の差に 気をくばり、がまんづよくなるのが とても大切 であることを学びました。
20. この捕鯨問題の和解をこんきつよく すすめることで、お互いの伝統や習慣をあらためてみなおし、理解しあう よい機会になれば いいと思います。
21. そして、今後の日豪関係が より 深まることを期待しています。